

第14回全国棚田（千枚田）サミット開催状況

■16日 開会式

10月16日(木)～18日(土)、サミットには全国から棚田ファン約1,200人が参加しました。

まず開会式は長崎県立総合体育館にて行われ、衆議院議員の久間章生様、高木義明様をはじめ、農林水産省、長崎県議会などから、多くのご来賓の方にお越しいただきました。

連絡協議会の古口会長は、「中山間地域が貧しいから国や県に支援を訴えているのではない。優しく、美しく、豊かで日本にとって必要な地域だからこそ次の世代に受け継いでいかなければならない」と訴えました。

体育館の広い会場に集まった多くの棚田ファンのみなさんです。写っていませんが2階席にも多くの方がいらっしゃいました。



■16日 開会式・オープニング

開会式の前に、長崎観光龍踊り会による龍の舞が披露されました。この会は長崎市内の観光関係者（旅館ホテル・交通関係・土産品店）等で組織され、長崎市観光の誘致宣伝・観光団の歓迎受入のため龍踊りを披露しています。この日はサミットを盛り上げる為に駆けつけ、見事な歓迎の舞を披露してくださいました。



※16日 お弁当

開会式前に会場で提供されたお弁当です。長崎角煮や長崎かまぼこのフライなどご当地の逸品の他、高級びわゼリーが入った豪華なお弁当でした。長崎の茂木（もぎ）びわといえば、会長の地元は茂木町といいますが、発音は「もてぎ」です。なんだか縁を感じますね～。



■ 16日 基調講演

開会式の後、「みんなで語ろう、棚田の未来」をテーマに、東京農工大学の千賀裕太郎教授の講演をいただきました。中山間地域が抱える「交流人口をいかに定住人口につなげるか」といった課題に、行政による子育て費（教育費）の補助の必要性など、具体的な事例をあげながらお話をいただきました。参加された皆さんも、終始うなずきながら熱心に聞き入っていました。



■ 16日 事例発表

長崎市立神浦小学校児童による事例発表の様です。大中尾棚田のオーナー制度の会費3万円が高いか安いか、アンケートやオーナーへの取材をとおしての感想などの発表がありました。オーナーの中には「3万円はお米の代金でなく、体験や自分ができる作業をしてもらっている世話代だから高いとは思っていない」という意見があり、オーナー制は地元住民の多大なる協力があってこそ成り立っているということを忘れてはなりませんね。オーナーさん達はそのことを分かった上でオーナーになっているのだと思います。棚田を守るということは本当に多くの方の理解と協力が必要なのですね。



子供たちの中には、「大きくなったら、お父さんの米作りを手伝いたい」という決意を持っている子もいて、こういった子供たちがたくさん棚田の地域に戻ってくるといいですね。

■ 16日 大中尾棚田見学会（長崎市外海地区）

写真は火祭りでの点火直後の写真です。3,600個もの竹筒に明かりがともると、サミットのテーマ「みんなで語ろう、棚田の未来」の文字が浮かび上がりました。点火式には、協議会会長の茂木町古口町長と昨年のサミットで現地見学地となった栃木県那須烏山市の大谷市長も参加し、幻想的な風景に、非常に感動されていました。



■ 16日 大中尾棚田にて太鼓演奏

出津愛児園の子供たちによる太鼓の演奏が行われました。子供たちの見事な演奏が棚田に響き渡っていました。



■ 17日 清水棚田見学会（雲仙市千々石町）

とてもいい天気で、3kmの道のりを、見事な石垣と音を立てて流れる美しい川の水を眺めながら歩きました。



暑い中、長い道のりを歩き疲れた参加者達の喉を潤してくれたのが、地元のご婦人方から提供された冷えたみかんやトマトでした。笑顔で出されると、ついついたくさん食べ過ぎてしまいました。とっても美味しかったです。ありがとうございました。



■ 17日 分科会

写真は第一分科会の様子です。パワーポイントを使っているのが画像が暗くてすみません。棚田で遊びながら生き物の役割や環境教育、食育について学ぶ大切さを教えられましたね。



■ 17日 全体交流会

全体交流会では、ステージで胡弓の演奏や太鼓など様々な出し物が催されました。特に和太鼓の見事な演奏には、皆さん圧倒されていましたね。



皆さん、地産地消の珍しい料理に舌鼓を打ちながら楽しく交流しました。やはりなんといっても芋焼酎が美味しかったですね（笑）また、刺身や握り寿司には長い列ができていました。クジラのハンバーグが珍しかったですね。参加者の皆さんは県を越えて多くの方々と交流の輪を広げたようでした。とても楽しいひと時でした。



■ 18日 閉会式・事例発表

最終日、千々石第二小学校5、6年児童による事例発表が行われました。岳棚田プロジェクト21の協力のもと、清水棚田の学習をした成果について映像をおとして分かりやすく発表されていました。こうした子供たちが、将来棚田を守る担い手としてこの地に残ってくれることを願ってやみません。千々石第二小学校のみなさんありがとうございました。



■ サミット会場 棚田連絡協議会PR

会場内での全国棚田（千枚田）連絡協議会PRブースの様子です。遠方から宅配で手づくりポスターを送ったためちょっと折り目がついてしまいました……。この会場で、申し込みを描いて下さった方もいました。ありがとうございました。

